

ブック村だより

本学コレクション紹介 (25)

- ペリー 『日本遠征日記』② 森岡 邦泰(1)
 ご挨拶..... 新図書館長 塩田 眞典(2)
 U-メディアセンター GATEWAY (図書館) 開館10周年記念企画
 「経済学の古典に学ぶ-スミスの世界とミルの世界-」実施報告 (3)
 ぶっくす・なう..... (4)
 『一四一七年、その一冊がすべてを変えた』 谷岡 一郎
 『緑の影、白い鯨』 塩田 眞典
 『なぜゴッホは貧乏で、ピカソは金持ちだったのか?』 佐和 良作
 『犬の伊勢参り』 下山 晃
 [拡大版] 読書会を実施しました (6)
 データベースを活用しよう..... (7)
 インフォメーション・開館案内..... (8)



“CHAPTERⅦ：APPEARANCE OF NAPHA” 挿図

本学コレクション紹介 (25) ペリー『日本遠征日記』1856 ②

渡辺浩『日本政治思想史』(東京大学出版会)は「かつて、日本列島は本当に美しかったらしい。徳川の末から明治初年に訪れた西洋人たちは、往々、人を夢見心地にさせるお伽の国に迷い込んだような印象を受けたようである」として、ある仏人の証言をあげる。いくつもの国をめぐり、港に入った最初の観望に期待外れになる国が多い中、江戸湾に入ったときは「魂を奪うよう」な美しい光景に魅せられたという。ペリーたち一行もそれと大差ない印象を受けたようで、特に琉球が気に入ったようである。上海では「すべての

シナの都市と同様、うんざりするほど汚い。街路をゆきかう男女の姿を見るだけで、彼らの不潔な習慣を直ちに判断できるのである」というが、琉球に到着したときは、「日本とその属領の住民」についての報告から「ヤンキー流のかけひきを持ち出してやろう」と横柄な態度に出る決意を固めながらも、「首里への道すがら、ずっときわめて美しい風景に眼が引きつけられどおしであった」という。いったいその美しいお伽の国はどこにいったのだろうか。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

ご 挨拶

図書館長 塩田 眞典（経済学部 教授）

今般、大阪商業大学図書館長に就任いたしました塩田です。早速ではありますが、当図書館についての私なりの考えを述べてみたいと思います。

一般には、図書館の使命は実に多様でありましょうが、大別すると以下の二点に集約されるでしょう。第一に、ある目的を持って来館された人たちにうまく対処できる能力、第二に、目的を持たずに来られた人たちに何らかの知的価値を提供できる能力、この二つの能力を備えてサービスを提供できなければなりません。第一のものは、例えば学生がレポートや卒業論文を作成するとき、基礎学力の不足を痛感したときにそれらを補うにふさわしい教材を求めるとき、さらには研究者や社会人が研究目的で利用しようとするとき、図書館がそれに手際よく対処できる能力です。この種の能力は効率性という尺度で測ることが可能です。原理的には、効率を高める施策を採ればよいわけです。

第二の使命はより漠然としており厄介です。目的を持たず、おそらく何らかの知的刺激を求め来館された学生や社会人も含めた人たちの期待に応えることができるか、図書館は知的刺激の場、予想外の発見や出会いの場を様々なジャンルに応じて提供できるのか、ということになります。要するに、第二の使命は館内に魅力的な知的迷路を創れと要求します。ところが、第一のものは迷路を整理せよと言い立てます。迷路で道草など食えば目的を手際よく達成できなくなるではないか、という次第です。実際、専門教育の立場からは、学生が迷路に入り込むなどもっての外、となるわけですが、教養教育の立場からいえば、「ちっとは迷路で遊べよ」となる。

ところで近年、大学での教養教育が窒息寸前の

ところで再び「教養が！」と声が上がっておりますね。教養を等閑にしておきながら薄々とその価値に気付きはじめたのでしょうか。そう、教養とはたんなる知的アクセサリーではなく、特に専門知をくぐり抜けた教養は異分野を仲介することによって創造性に寄与できるわけです。

とはいえ、やはり専門知は効率的に修得されるべきものでありましょう。図書館も当然その修得作業に寄与いたします。ただし、過度に効率性のみを追求することは、教育現場においても、さらには社会全般においても人間の創造性をスポイルすることになりかねません。どの世界においても、効率性と創造性ととのバランスが大切なわけです。当図書館も然りです。第一の使命と第二のそれをいかに両立させられるか、第一のものはその成果を数値化し短期的に評価できますが、第二のものはその成果を数値化できず、またそれゆえ短期的視野には入ってきません。それだけに短期的成果主義ばかりが先行し、長期的視野を欠く場合には第二の使命が等閑にされがちとなるわけでしょう。当図書館が専門教育の充実に寄与するとともに、長期的視野に立ち教養教育の砦となり、創造性を育む場となり広く社会に貢献できることを願っております。



「経済学の古典に学ぶ-スミスの世界とミルの世界-」実施報告

2013年1月、U-メディアセンター GATEWAY (図書館) 開館10周年を記念し、特別展示・記念講演を開催しました。記念講演の講師としてお迎えしました関西学院大学学長(旧・本学教員)井上 琢智 先生には、ご講演にとどまらず、展示構想や、ご専門であるJ.S.ミル未公開書簡のご解説などに多大なご協力を頂きました。

1. 特別展示

2013年1月15日(火)～1月26日(土)の計10日間(1/19、20は閉館)、本学商業史博物館 谷岡記念館2階 企画展示室にて、約40点を公開しました。期間中、148名の方に来場頂きました。

<アダム・スミス>

『道徳感情論』

初版～4版、6版 フランス語版初版 プラヴェ訳版 アメリカ版初版

『国富論』

初版～5版、11版 ルシエ版 スウェーデン語版 バーゼル版、ガルニエ版初版、ガルニエ訳ブランキ版ほか

<J.S.ミル>

自筆書簡9点(うち未公開書簡3点)

『論理学体系』『経済学原理』『自由論』『功利主義』『自伝』各初版 ほか



(展示協力: 本学商業史博物館)



講演会終了後、芳名録へ記念のサインを頂きました

2. 記念講演会

2013年1月26日(土)、メディアセンター 4F ネットワークレクチャールームにて、上掲のテーマを題した記念講演会を行ないました。参加者数は定員を大きく上回り、学生10名を含む約60名の方に参加頂きました。



<講演会 レジюмеより抜粋>

【I】何を「古典」から学ぶか

「…自然の偉大な営みに抗してきた人間の生き方に反省が求められている今、経済学が孕む近代合理主義のもつ課題に注目出来ればと願っています」

【II】経済学の二つの系譜

【III】アダム・スミス (1723-1790)

- 1) ニュートニアンとしてのスミス
- 2) 学問の分業

【IV】ジョン・S・ミル (1806-1873)

- 1) イギリスにおける「自然と人間」とナチュラリスト・ミル
- 2) ナチュラリスト・ミル
- 3) 『経済学原理』における「自然」と「人間」-「生産」と「分配」の二分法

【V】おわりに

講演会終了後に展示会場に移動しましたが、こちらでも井上先生と学生との応答は止むことなく、会場は終始にわたり活気に満ちていました。

講演会後のアンケートでは、多くの方から「あっという間に時間が過ぎました」「お話をもちとお聞きしたかったです」「同様の企画を是非継続してください」といった声が寄せられました。



『一四一七年、その一冊がすべてを変えた』

(柏書房, 2012.12)
 スティーヴン・グリーンブラット 著
 河野 純治 訳

今回の本は難解ですので紹介すべきか否か躊躇しました。しかし皆さんは、先進国の文化の中心(大阪および周辺)地域にある最高学府で学ぶのですから、(その気になれば)こういう本を読みこなせる教養は持っているはず。その意味であえて選びました。

1417年、イタリア人でローマ法王の秘書を務めていたポッジョという者が、古い修道院で紀元前に書かれたある書物を発見します。『物の本質について』と題された著作で、ルクレティウスというローマ人が書いたものですが、そこには驚くべきことが書かれていたのです(ネタバレはやめておきましょう、「スゴイ」ことだけは保証します)。

ゲーテンベルクによる印刷技術が広まる以前ですから、いくつか肉筆の筆写本が作られました。のちに印刷され、ヨーロッパ各地にも知られるようになったわけですが、本書はキリスト教のいくつかの教義を巻き込んだ事件として関係していくことになります。内容は一種の博覧強記、ウンベルト・エーコの『薔薇の名前』をさらに難解にしたようなものと考えるとよいでしょう。

冒頭に述べましたが、万人に勧めるお手軽本ではありません。しかし本物の知にチャレンジしたい人もいるはずと考え、あえて紹介することにしました。それはあなたでしょうか。

(学長 谷岡 一郎)



『緑の影、白い鯨』

(筑摩書房, 2007.10)
 レイ・ブラッドベリ 著 川本 三郎 訳

SF小説『華氏451度』等で知られるレイ・ブラッドベリはジョン・ヒューストン監督の映画「白鯨」のシナリオライターでもあったのだ。彼は当時アイルランドに居住していたヒューストンの下でシナリオ執筆に苦闘する。これが物語の縦糸、横糸は作者がアイルランドで遭遇するシニールで幻想的、しかも何か滑稽な数々のエピソードから成る。小説はこの縦糸と横糸が絶妙に絡まり緩く編まれたチャミングな織物のようだ。

ブラッドベリが執筆作業に苦闘しなければならない事情は二つある。その辺りの大変さを作者行き付けのバブの主人フィンがうまく要約してくれる。「…お前さん、仕事に戻って、二匹の獣、一匹は海にいる、もう一匹は馬に乗っている、そいつと格闘する前にひと息入れた方がいいよ」と。

海上の獣はエイハブ船長(白鯨?)、馬上の獣はヒューストン。酒好きのギャングラー、しかも馬好きのハンターでもあるこの大物監督に、堅気で小心者の作者は精神的に小突きまわされ、半泣きの体でそれでもシナリオをめめたく完成させる。

こうして物語は完結する。読み終わると、映画「白鯨」を、さらにはヒューストンの他の作品群「黄金」「マルタの鷹」「アフリカの女王」等をDVDで観たくなる。ヒューストンの自伝『王になろうとした男』も読みたくなる。ハーマン・メルヴィルの巨作『白鯨』も読みたくなるな。こちらは途中で沈没するかもしれないが…。

(経済学部 教授 塩田 真典)



『なぜゴッホは貧乏で、ピカソは金持ちだったのか?』

(ダイヤモンド社, 2013.3)

山口 楊平 著

ゴッホとピカソが偉大な画家であることは誰もが知っている。しかし、ゴッホは多くの仕事を転々としながら苦勞して画家となったが、2000点に上る作品のうち、生前に売れたのはわずか1点のみであった。一方、ピカソの作品は7万点を数え、数か所の住居、複数のシャトー、莫大な現金など、遺産の評価額は日本円で7500億円に上ったという。

両者の命運を分けたのは、ピカソの方が「お金とは何か?」に興味を持ち、深く理解していたという点であった。新しい絵を描きあげると、なじみの画商を数十人呼んで、展覧会を開き、作品を描いた背景や意図を細かく説明して、絵の値段を競わせたという。ピカソは「価値を価格に変える方法」を熟知していた。ピカソは少額の支払いで

も好んで小切手を使ったという。サイン入りの小切手を手にした人は、銀行に持ち込んで現金に換えてしまうより、ピカソのサインを手元に置いておくに違いない。小切手は換金されないため実質的にタダで買物を済ませることができたことになる。

なお、本書はゴッホとピカソに関する本ではない。ここで紹介したのは「はじめに」に書かれていたことで、ピカソのようにお金の本質を理解し、来るべき未来について備えをすれば、きっと経済的にも社会的にも自由に暮らすことができるようになるだろう。こうした点についてのさまざまな具体的事例が紹介されている。

(経済学部 教授 佐和 良作)



『犬の伊勢参り』

(平凡社新書, 2013.3)

仁科 邦男 著

今年は20年に一度の「式年遷宮」が伊勢神宮でとり行なわれ、出雲大社では、60年ぶりとなる大遷宮「本殿遷座祭」が催される。日本を代表する二つの御社（おやしる）の最も重要な祭儀が同時に重なる訳で、まこと、珍しく目出たく、どこか嬉しいような感じ。

江戸時代には、「一生に一度はお伊勢参りする」ことを誰も彼もが願っており、とりわけ遷宮祭の年には300万～400万もの人の流れが伊勢に向かったといわれる。オドロキ！である。もっと「オドロキい！」は、イヌやウシやブタまでもが伊勢をめざし、日本各地から伊勢までを「単独で旅することが出来た」ということである。

あなたは今、「え！？何？イヌやブタが？単独で？あほか、ウソつけえ！」と思われまし

たね。「あほか」とおっしゃいますが、高い授業料を払って「大学」へ寝に来る愚か者ほどではありませんし、「ウソつけ」とおっしゃいますが、兵器業者や金融詐欺師や原発推進派や社保庁関連の与太者ほどの極悪なウソは、ほくは決して申しません m(>.<)/

日本では江戸時代には、本当に、イヌやブタが「単独で」伊勢まで旅することが出来たのです。本書を読むと、その背景や事例がよく判るし、その時代、ケモノも含めて誰も彼もがつながり合う願いを共有し、互いに助け合いいたわり合う高度良質な文化を日本人が築きあげていたことがよく判る。手堅くさまざまな史料に目をくばり、実に面白い史実をとり上げたユニークな快著、です。

伊勢参宮 眉間に水が すっと過ぎ 響太郎

(総合経営学部 教授 下山 晃)



[拡大版] 読書会を実施しました

学生選書スタッフがお互い本を持ちより、情報交換や交流を重ねてきました「読書会」ですが、2013年2月20日、U-メディアセンター GATEWAY (図書館) 開館10周年を記念し、すべての利用者を対象とする「拡大版読書会」を開催しました。



当日は、年齢幅半世紀の(!) 多彩な顔ぶれの方々6名にお集まり頂きました。緊張たどよう開会となりましたが、うちとけ合うにつれ、全員が一体となった実りある会となりました。

ここではコメントの一部をご紹介します。

武丸 光夫さん (一般利用)

『古典外交の成熟と崩壊』高坂 正堯 著

京都大学での聴講時に紹介された図書。「中国問題は21世紀全般の最大の問題だが、それは(中略)若い君たちの問題だ」と述べ、現在の危機を予言している。「反日」という概念の起源がいつなのかはわかっていないが、過去50年をみても「日清戦争の屈辱を克服しないかぎり、復興はあり得ない」といわれている。朝鮮や琉球との関係についても、我々は知らないことが多すぎる。学生さんにはこれらの図書からは是非学んでほしい。

堤 真緒さん (OG)

『魔女は甦る』中山 七里 著

著者は映画化された人気作『さよならドビュッシー』の作者。選書ツアーでタイトルと表紙に魅かれて手に取った。物語はいきなり、バラバラ死体が発見されたところから始まる。凶器・動機などは不明で、会社の身分証から被害者の身元が判明。被害者の恋人と、警察官である主人公によりストーリーが進む。刑事ものかと思ったが、読み進むうちに動機や被害者の人物像や展開に引き込まれていった。実はカバーにヒントが隠されているので、是非手に取ってほしい。

名越 己井子さん (一般利用)

『医心方』丹波 康頼 撰

漢文で書かれた(日本現存最古の)医学書。原著は約30冊の全集で、訳には何十年も費やされている。『巻四 美容篇』は「美容法」について書かれており、「卵の殻を煮出すお肌の手入れ法」「まゆ毛の抜ける理由」「柔らかすぎる髪の毛」など色々な内容が、易しい言葉で書かれている。

濱中 拓郎さん (公共経営4年)

『MAKERS』クリス・アンダーソン 著

ビジネス書に近い内容で、3Dスキャナー・プリンターの可能性について触れられており、時代の流れを概念化したような本。これまでは資本や技術を持った上流階級が物をつくり、世界をリードしてきたが、これからは「消費者がものを作る時代」が訪れると説いている。「時代の流れ」に注目したい。

藤本 大貴さん (経済4年)

『最終戦争論』石原 莞爾 著

著者は陸軍参謀で第二次世界大戦中、中国進出に対立し退位させられた、満州事変の立役者と言われている人物。この本は1940年に行なった大学の講演内容をまとめたもので、原爆による終戦やインターネット社会、アメリカの支配などのちの世界を予想しているが、現代にいくつも合致していて面白かった。

山林 誠一郎さん (一般利用)

『高橋財政の研究』井手 英策 著

昭和恐慌からの脱出と財政再建がテーマ。現在も不況のただなかであり、この頃と似ているといわれている。当時は比較的早い段階で復興をとげている。そこには日本銀行のオペレーションや大蔵省の財政集中という基盤、経済のしかけ、計画能力があったが、軍事費が多くを占めるようになり、大蔵省の統制が困難となっていく。

財政学の方法論的な問題を正しながら最終的には福祉国家につながる、その間の技術的・制度的なファクターについて述べられている。

当日の様子は図書館サイトでもご覧頂けます。

データベースを活用しよう

メニュー画面

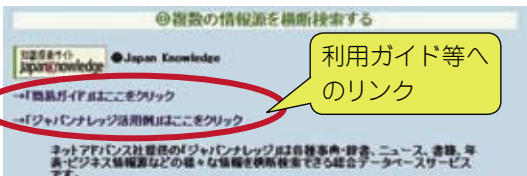
図書館ホームページトップ画面より下記の画像をクリックすると、一覧が表示されます。

契約データベース
(学内利用)



メニューの「文字」をクリックすると、各データベースの説明にジャンプします。ここから利用ガイドを閲覧することもできます。

「ロゴ」をクリックすると、各データベースにアクセスします。



「CiNii Books」

本年3月、国立情報学研究所提供の総合目録データベース検索サービス「Webcat」がサービス終了しました。「Webcat」は、全国の大学や研究機関が所蔵する図書・雑誌を利用制限なく検索できるサービスで、現在、その後継サービスとして「CiNii Books」が提供されています。



新サービスでは、検索結果画面で表示される所蔵機関について、「地域」などの条件で絞り込み検索することができます。



また各機関のOPACに直接リンクしているため、すぐに所蔵状況を確認することができます。

第一法規「法情報総合データベース」(学内利用)

従来の「判例体系」に加え、下記データベースが利用できるようになりました。



「現行法規 (現行法検索)」

委任・罰則・参照・改正情報等の情報を独自に整理した豊富な注釈情報を搭載。

「法律判例文献情報」

約1,600誌以上の法関連文献(図書・雑誌・紀要)および判例の掲載情報を独自に分類・整理し、網羅的に収録。

★「学内利用」…図書館の貸出用ノートパソコン・6号館オープンルーム・院OALームなど、学内ネットワークに接続されたパソコンからの接続を指します。

図書館インフォメーション

◆特設コーナー『新生活応援フェア』ご利用ください！

新入生のみなさん、新たに一人暮らしを始める人や就活中のみなさんにお薦めする本を、特設コーナーに集めました。初心者向けレシピや片付け術、勉強のコツなど、幅広く集めています。図書館2Fに展示しています。この機会に、一度のぞいてみてはいかがでしょうか。(利用好調のため、貸出中の場合はご容赦下さい。)

◆2012年度 年間貸出ランキング

- 第1位 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら / 岩崎夏海著 (ダイヤモンド社, 2009.12)
- 第2位 聞く力：心をひらく35のヒント / 阿川佐和子著 (文藝春秋, 2012.1)
- 第3位 桐島、部活やめるってよ / 朝井リョウ著 (集英社, 2010.2)
- 第4位 ビブリア古書堂の事件手帖 1 / 三上延著 (アスキー・メディアワークス, 2011.3)
- 第5位 体系流通論 / 田口冬樹著 (白桃書房, 2001.6)

◆2012年度下半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです。(50音順 敬称略)

※配架場所は「**本学教員著書コーナー**」です。貸出もできます。

【生田 真人】 『東南アジアの大都市圏：拡大する地域統合』 古今書院, 2011.11.

【中津 孝司】 『日本のエネルギー政策を考える』 創成社, 2012.11.

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

●は休館日です。

上記以外にも臨時休館日を設定場合があります。

開館日時は変更することがあります。

カレンダーは、図書館1階・ホームページで確認できます。